

「基本計画（素案）」と「第三次長期計画」の主な取組の比較

区分	項目	①基本方針の方向性	②方向性を踏まえた主な取組	第三次長期計画の主な取組		
①生徒	共通	・様々な手段を活用した魅力化・特色化の取組の分かりやすい発信	・様々な手法を組み合わせ、 <u>広域的で効果的な情報発信の充実</u> ・イベントや行事等の開催による高校生の活躍を広くアピールできる場の設定	—		
		・生徒数の動向や公立高等学校としての役割を踏まえた学科のバランスの検討	・多様な学びが選択できる学習環境の確保 ・生徒数の動向や地域ニーズ、他校との配置バランスを考慮した上で <u>新たな学科・コース等の設置の検討</u>			
		・生徒の興味・関心に沿った多様な学習を選択できる仕組みの検討	・ <u>カリキュラム・マネジメントの推進</u> により、生徒の興味・関心に応じた協働的・探究的な学びを <u>実践し、生徒の進路希望や学習ニーズに沿った学びの機会の創出</u> ・ICTの効果的な活用と関係機関等との連携による多様な学びの実現			
		・対面での学びとのバランスや遠隔授業に関する制度的制約への対応も含めたICTを活用した新たな教育手法等の研究・展開	・対面での学びとICTを活用した学びとのベストミックスの検討 ・ <u>現行の制度的制約を踏まえた、学校間連携や遠隔授業配信センター機能の設置など、本県の実態に応じた新たな教育手法の研究</u>			
		・地域の大学等との連続性を意識したコース等の検討	・生徒の進路を考慮した大学や企業と連続性のある教育活動の展開 ・大学や企業、自治体など産官学の連携により、高等学校での学びを超えた <u>専門性の高い学習機会の創出</u>			
	学科等	普通科	・教科のバランスや学習内容の汎用性に配慮しつつ、教科横断的な学びの推進 ・探究的学習の推進、地域の特色・特徴を反映させたカリキュラム開発の推進		・ <u>学科間及び学校間連携等を通じた教科横断的で幅広い視野を育む学びの充実</u> ・ICTを活用した国内外の大学・高等学校・企業等との連携・協働による <u>探究的な学びの推進</u> ・ <u>グローバルに活躍する人材の育成に向けた特色ある学科・コース制（類型）の設置の検討</u> ・地域の実態や適正配置等を踏まえた中高一貫教育の推進	・各学校で、生徒の実態に応じた特色化や教育課程の編成を検討 ・キャリア教育も含めた進学指導の充実や高大接続システム改革の方向性を踏まえた教育課程の検討 ・生徒及び社会のニーズに柔軟に対応した教育内容の改善・充実 ・新たな学科の設置等の検討 ・適正配置を踏まえた新たな中間一貫教育校の設置の検討
		専門学科	・地域の産業界等と連携したカリキュラムの導入や学科改善等の推進 ・プロフェッショナル人材の更なる活用		・企業や社会のニーズに応じた専門的な学びの充実と <u>産学官が一体となった実践的・体験的なカリキュラムの導入</u> ・地域や企業等と連携による新たな産業の創出や新技術を開発できるなど、 <u>アントレプレナーシップを有する職業人の育成</u> ・地域や生徒のニーズに応じた魅力ある <u>教科横断的な学びの充実</u> や学科改善等の積極的な推進 ・各分野の専門性を高めるためのプロフェッショナル人材の効果的な活用 ・各学科で各業界の課題を踏まえた <u>将来的に地域で活躍できる人材の育成</u> ・ <u>県全体の専門学科の広域的な在り方について、外部の知見も踏まえた検討</u>	・労働人口の確保、産業の高度化への対応、「 <u>技芸を磨く実学</u> 」の奨励の推進 ・地域や企業等との連携による新たな産業の創出やチャレンジ精神あふれる実践的な職業人の育成 ・生徒及び社会のニーズに対応した学科改善等の推進 ・専門教育の魅力を発信したり体感できる機会の増加
		総合学科	・専門性の高い教員の配置・育成、他業種との積極的な連携等 ・生徒や社会のニーズを踏まえた系列の見直し ・学校配置のバランスを考慮しつつ、将来的な他学科への改編も検討		・企業や高等教育機関との連携による教員のスキルアップできる <u>機会の充実</u> ・ICTを活用した学校間連携、地域人材や資源を活用した多職種連携、大学や企業との連携による実践的な教育の推進 ・時代の変化や社会のニーズに対応した系列（教育内容）の充実化 ・効果的な学びが可能な学校規模を確保し、 <u>状況によっては学校配置のバランスを考慮した将来的な他学科への改編を検討</u>	・将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深めさせる学習及びガイダンス機能の一層の充実・改善 ・地域資源等を活用した特色ある教育内容の充実、大学や企業等と連携した実践的な教育の推進 ・時代の変化や社会のニーズに対応した系列（教育内容）の見直し

※下線部は第三次長期計画に記載のない新たな考え方、アプローチ、手法等

区分	項目	①基本方針の方向性	②方向性を踏まえた主な取組	第三次長期計画の主な取組
①生徒	学科等 定時制・通信制課程	<ul style="list-style-type: none"> 医療・福祉機関等との連携強化による学校のセーフティネット機能の向上 様々な困難を抱えた生徒に対応したICT活用の検討 中期的・長期的な期間を設定した職場実習のカリキュラムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等と連携した支援体制の強化 生徒の多様な学習ニーズに応じるためのICTの効果的な活用による学習機会の確保 様々な困難を抱えた生徒の実態を踏まえた柔軟な教育システムの実施 企業や労働・産業・福祉等の関連機関と連携した中長期的な職場実習やカリキュラムの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 学年制による夜間定時制課程は、単位制による昼間、夜間を併置する定時制高等学校への再編等を検討 インターネットやICTを活用した柔軟な通信教育システムの研究・開発 通信制課程のスクーリング等を活用した、他校からの通級が可能なシステムの整備 企業や労働・産業・福祉等の関連機関と連携した就労支援の充実
	共生・共育	<ul style="list-style-type: none"> 県立高等学校への特別支援学校高等部分校の併置も含めた高特連携、地域の多様な社会資源や専門機関等との連携の仕組みの構築 特別な支援が必要な生徒の受入れの在り方を関係機関等と整理した上で、必要な支援体制の整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校高等部分校の設置の計画的な推進、及び高特連携の推進による相互理解の促進 特別な支援が必要な生徒の高等学校への受入れ体制や支援の在り方の検討 高等学校卒業後も進学先・就職先まで切れ目のない支援体制の充実 医療関係機関及び専門機関等と連携した支援・協力体制の整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の生徒数の動向、余裕教室の状況等を踏まえ、特別支援学校高等部分校設置の検討 発達障害等を抱えた特別な支援等を必要とする生徒に対して、特別支援学校と連携した支援体制（通級指導等）を検討
	公私連携	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校進学者の概ね3分の2を公立高等学校が受け入れることを目安とするが、私立を選択する生徒や保護者の増加を踏まえ、公私の受入割合を実績に応じて検討 生徒が共に学べる取組や教員の交流など、積極的な連携の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 公私間の連絡会における協議等を通じた公私連携の在り方の検討 生徒が共に学べる行事やイベント等を通じた生徒間交流の推進 授業公開等による教員の専門性を高める公私合同による研修会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校進学者の概ね3分の2を公立高等学校が受け入れることとしつつ、今後の在り方については、幅広く意見を聞きながら研究協議を実施
	入学者選抜 (県外募集含む)	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の能力を的確に評価し、かつ分かりやすく受検しやすい制度について関係者の意見を踏まえた検討 地元の理解と主体的な関与や受入れ体制の整備による県外募集の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 受検生を多面的に評価する選抜方法の在り方の検討 専門委員会及び検証委員会での集中的な協議を通じた改善策の検討 地元の理解と自治体や企業等の主体的な関与による各高等学校の魅力化・特色化及び受入れ体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 地元自治体の支援による生徒の受入環境が整っている地域で実施・検証(県外募集)
②地域	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 地域との対話のプロセスを重視した学校運営の推進 学校や地元自治体、社会教育機関、民間企業等が主体的に連携し、高等学校を支える仕組みの検討 学校と地域をつなぐコーディネーター活用の検討 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)導入校の拡充・取組の充実 地域資源や地域人材を活用した機能的な連携体制の構築 学校と地域との連絡調整を行うコーディネーター人材等の育成・活用の検討 教員の業務負担の軽減を踏まえた持続可能な推進体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材や特色ある教育資源などを積極的に導入し、学校の持つ教育資源を地域に提供し、双方向での連携を強化 産業界及び地域との連携により、体験学習やキャリア教育等の推進
	地域協議会	<ul style="list-style-type: none"> 地域における学校の在り方や地域との連携方策について、長期的な視点で意見を聴取する場の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域の実態等を踏まえ、計画的な地域協議会の開催 地域協議会の協議内容に基づき、地区ごとに高等学校の在り方を示すグランドデザインを作成 	—

区分	項目	①基本方針の方向性	②方向性を踏まえた主な取組	第三次長期計画の主な取組
③教育基盤	地域の実情を踏まえた高等学校の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校における適正な規模等については、教育効果の検証や、社会状況の変化などを踏まえて検討 当面の間、生徒数の減少等を踏まえ、教育効果を高める効率的な資源投入や、公教育に求められる学びの機会を保障する観点から、以下の考え方で進める *学校の規模は、1学年の定員が240人から320人を基本とする *なお、実学系の学校など地域における教育の多様な選択肢を確保するための学校や教育空白域（地理的条件や公共交通機関の状況等により、当該地域の生徒の教育機会が著しく損なわれる地域）を回避するための学校については、地域バランスを踏まえて設置に配慮する 上記の考え方に該当しなくなった場合は、生徒にとって適正な教育環境を確保する観点から改編を検討 少人数学級（35人以下学級）については、35人学級編制している高等学校の状況を踏まえ、さらに研究を進める 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域における将来的な生徒数の動向を分析し、実態に沿った規模・配置等を検討 県立高等学校の教育機関として地域に果たす役割、生徒の通学の利便性や地域の実情等を踏まえて、今後の県立高等学校における適切な規模と配置の検討 地域で通学できる高等学校が一つしかない場合や、存続の必要性が高い専門学科等を設置する高等学校については、生徒及び地域の実情等を踏まえ弾力的に検討 該当する県立高等学校が設置されている地区において地域協議会を開催し、長期的な視点から地域の意見を聴取し、今後の在り方を検討 35人学級を編制している高等学校の状況を踏まえ、弾力的な学級編制を研究 	<ul style="list-style-type: none"> 1学年6～8学級を標準規模とするが、専門学科等の教育内容の特色や生徒及び地域の実情を踏まえ、弾力的に対応 4学級以下の高等学校、産業従事者等に見合った規模ではない高等学校は改編（再編整備）を検討 地域の実情や設置学科の特質、通学の利便性等を考慮した弾力的な高等学校の配置 1学級40人を標準とし、長期欠席生徒選抜実施校、過疎地域等の高等学校、専門学科については弾力的な対応を検討
	小規模校の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校（2学級以下）としての存続の場合、ICT活用や地域連携等により、教育水準を維持 生徒募集が1学級規模の分校等について、入学者数が2年連続15人未満の場合は、原則として募集を停止 分校等の生徒募集を停止したことにより教育空白域が生じる場合は、支援策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を確保するため、ICTを活用した遠隔教育の推進 地域資源や地域人材を活用した機能的な連携体制の構築（再掲） 幼・小・中・高による一貫した教育体系の構築 生徒募集が1学級規模の分校等について、入学者数が2年連続15人未満の場合は、原則として募集を停止 生徒募集を停止したことにより教育空白域が生じる場合には、地元自治体等と連携して通学手段の確保等の支援策を検討 	<ul style="list-style-type: none"> 学校間連携や外部の教育機関との連携による多様な学習機会の確保 ICTを活用した遠隔教育システムの研究 地域資源や地域人材を活用した機能的連携による教育内容の充実 分校等にあつては、2年連続して入学者が15人を下回った場合には募集を停止 募集停止した地区の生徒が他地域で高等学校教育を受けられるよう、地元自治体と方策を検討
	教員の在り方	<ul style="list-style-type: none"> 教員の専門性の向上 ICTを活用した学びや探究的学習など、これからの時代に求められる教員の育成に向けた研修の充実 専門性を持った外部人材の積極的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> 「静岡県教員育成指標」を踏まえた教員のキャリアステージに応じた研修の実施 組織マネジメントが効果的・効率的に推進される組織体制の強化 企業や大学等と連携した授業におけるICTの活用イメージを共有できる研修の実施 探究的な学びに対する教員のスキルアップに向けた研修会等の充実 教員の健康管理やメンタルヘルス対策の推進による教員の心と体の健康の保持・増進 外部人材の活用による生徒の専門性を高める学びやキャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教員育成指標に基づく自己研鑽・研修による資質の向上 教育者として求められる資質・能力の維持・向上 学習指導要領の改訂に合わせた指導力の向上 学校において日常的に学びあうことができる校内研修（OJT）の促進 学校における業務の精選や効率化による多忙化解消に向けた取組の推進
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ファシリティマネジメントの観点による、総量の適正化や長寿命化改修等の質の改善 空調等の環境改善及び可動壁のある教室など柔軟な仕様の設備の投資効果を踏まえた検討 地域の利便性や地域ニーズに応える施設の活用方法の検討 施設を長期間維持するために必要な知識・技術を学ぶ活動 	<ul style="list-style-type: none"> 「静岡県学校施設中長期整備計画」に基づく県立学校施設の適正化や整備の推進 家庭や社会環境の変化に対応した学校施設の機能・性能の向上 生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に引き出す学びが実現できる教育空間の整備の検討 地元自治体等と連携し効果的・効率的な施設整備・活用を具体的なケースごとに検討 生徒一人ひとりが施設・設備を長期間維持する上でのルールづくりや必要な知識・技術を学べる活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な老朽校舎の長寿命化改修や建て替えの推進 ユニバーサルデザインの導入、ICTを活用した学習空間の整備・充実 理科教育及び産業教育施設・設備の計画的な整備 	